

## ◎食のリスクコミュニケーション・フォーラム 2021(4回シリーズ)

### 『with コロナの安全・安心につながるリスクとは』 第2回テーマ:『残留農薬のリスクのあり方』(オンライン)

【開催日】2021年6月20日(日)13:00~17:50(講演会)

オンライン懇親会 同日 18:00~19:30(ブレイクアウト・セッション)

【開催場所】オンライン会議(Zoom)

【主催】NPO 法人食の安全と安心を科学する会(SFSS)

【後援】消費者庁、東京大学大学院農学生命科学研究科附属食の安全研究センター

【協賛】株式会社セブン-イレブン・ジャパン、日本生活協同組合連合会、  
日清食品ホールディングス株式会社、サラヤ株式会社

【対象】食品関連行政の担当者、食品事業者の広報・お客様相談・品質保証担当、リスク研究者、  
マスメディア、消費者団体・市民団体、など

【定員】先着 70 名(オンライン会議のため増員の可能性あり)

【講演会参加費】3,000 円/回(事前に銀行振込をお願いいたします)

\* SFSS 会員、後援団体・協賛企業(口数により人数制限)、メディア(取材の場合)は無料

【参加申込み】<https://forms.gle/u9NWRnWDRkfaWBf6> (申込期限:6月18日(金))

\* SFSS 会員も各回の参加申込みが必須です(4回自動登録される訳ではありません)

【お問い合わせ】SFSS 事務局まで([info@nposfss.com](mailto:info@nposfss.com))

【本フォーラムの主旨】

毎回、食のリスクに詳しい有識者をお迎えし、講師 3 名(Q&A 含み 60 分)+総合討論(90 分):13:00~17:50 の構成とします。総合討論では、消費者市民の安全・安心につながる食のリスクコミュニケーションのあり方について、参加者の皆様からの質問に講師が回答する形で議論します。

【事故防止対策等】フォーラム開催に際して、事故防止及び公衆衛生の措置に留意し、十分に講じます。特に、今般の新型コロナウイルスに関しては、十分な感染症対策等を講じることとします。

【各講師のご紹介&講演要旨】

#### ① 原田 孝則 (一般財団法人残留農薬研究所 理事長)

##### 『グリホサートのリスク(発がん性)について』

グリホサートは、1970年に米国モンサント社によって開発されたアミノ酸系除草剤で、1974年に米国にて登録され、安全で有効な除草剤として世界的に普及し、現在も各国にて幅広く使用されている。ところが2015年に国際がん研究機関(IARC)が、グリホサートを Group 2A「ヒトに対しておそらく発がん性がある」に分類したことに端を発し、その波紋が各国に波及し、農薬業界のみならず農業作業員や一般消費者にまでグリホサートの安全性に対する不安を煽る結果となった。このグリホサートを Group 2A に分類した IARC の根拠と各国規制当局のリスク評価結果を対比しながら、その発がん性リスクについて科学者としての個人的見解を述べる。

② 浅川 芳裕(農業技術通信社)

『世界・日本の「反グリホサート運動」の真相』

グリホサート(除草剤ラウンドアップ等の有効成分)の使用に対して、“市民”の反対運動が長期化している。グリホサートは世界中の科学的規制機関で安全性試験をクリアし、150カ国以上の農業現場でもっとも使用されている農薬成分である。科学界・農業界に受け入れられながら、なぜ反対運動が続くのか。その背景には、米国の訴訟ビジネス業界と欧米日の反農薬・GMの有機ビジネス業界の共通利害が存在する。さらには、両業界の利害にお墨付きを与える国際機関の存在ならびに業界と機関のパイプ役として動く専門家の利害がある。講演では、この複雑な利害構造を解きほぐし、反対運動の真相に迫る。そのことで、従来の性善説に基づく農薬リスクコミュニケーションの限界を示すと共に、新たな視点から根本的な打開策を提言する。

③ 小林 秀誉(農林水産省 消費・安全局農産安全管理課農薬対策室 室長)

『我が国の農薬登録制度について』

農薬は、農産物を安定供給するために必要な資材である一方、農作物という、食品になり得る物に散布されるものであり、また意図的に環境中に放出されるものであることから、リスクを適切に管理する必要がある。本講演では、我が国において、農薬を新しく開発したり、使用したりするときどのように管理されているのかについて紹介する。また、食品中の残留農薬については、各国が定める基準値のほか、国際的な基準値(コーデックス基準値)も存在する。本講演では、コーデックス基準値の設定の仕方や、基準値を設定する際の科学的な考え方についても紹介する。

以上